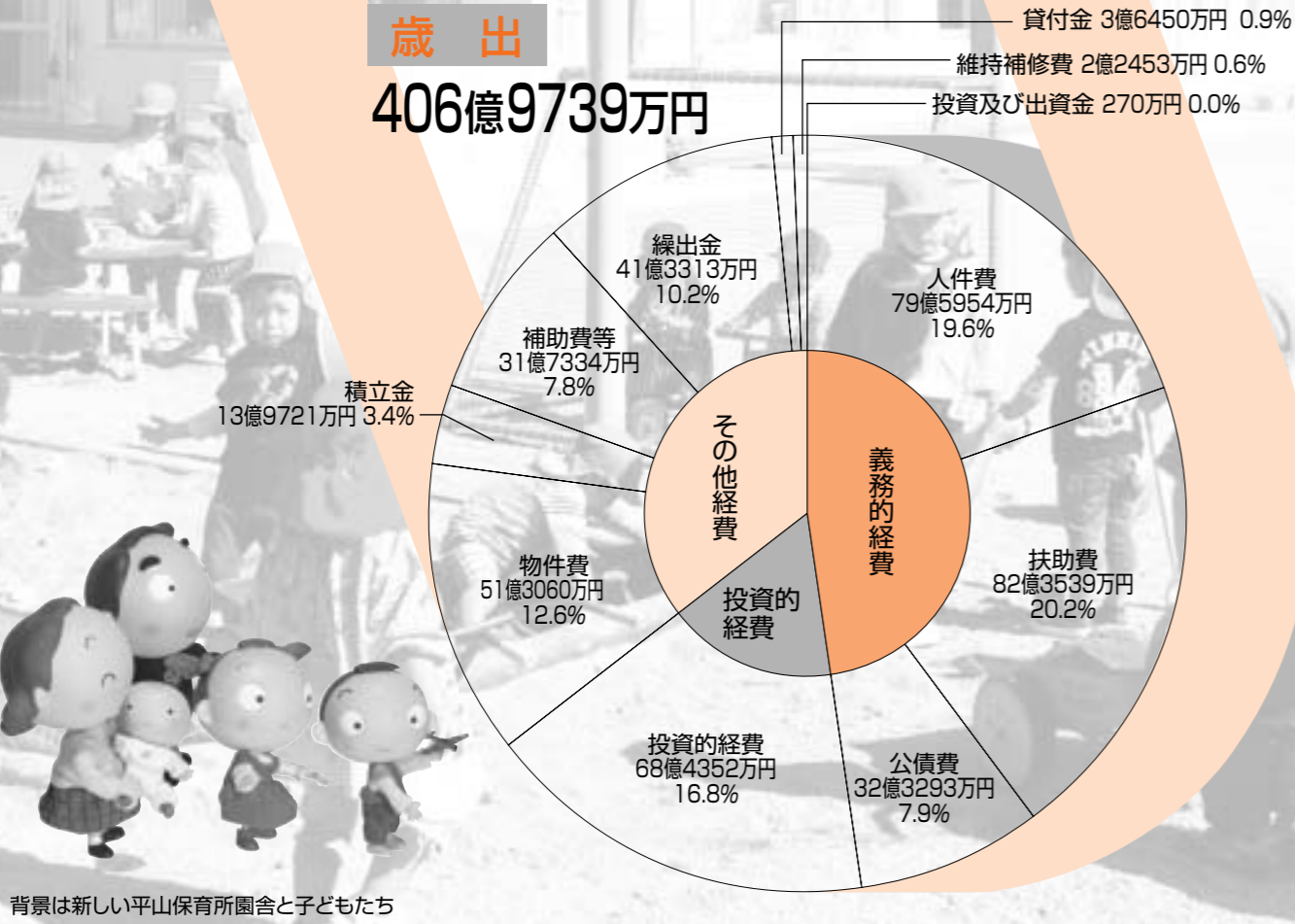
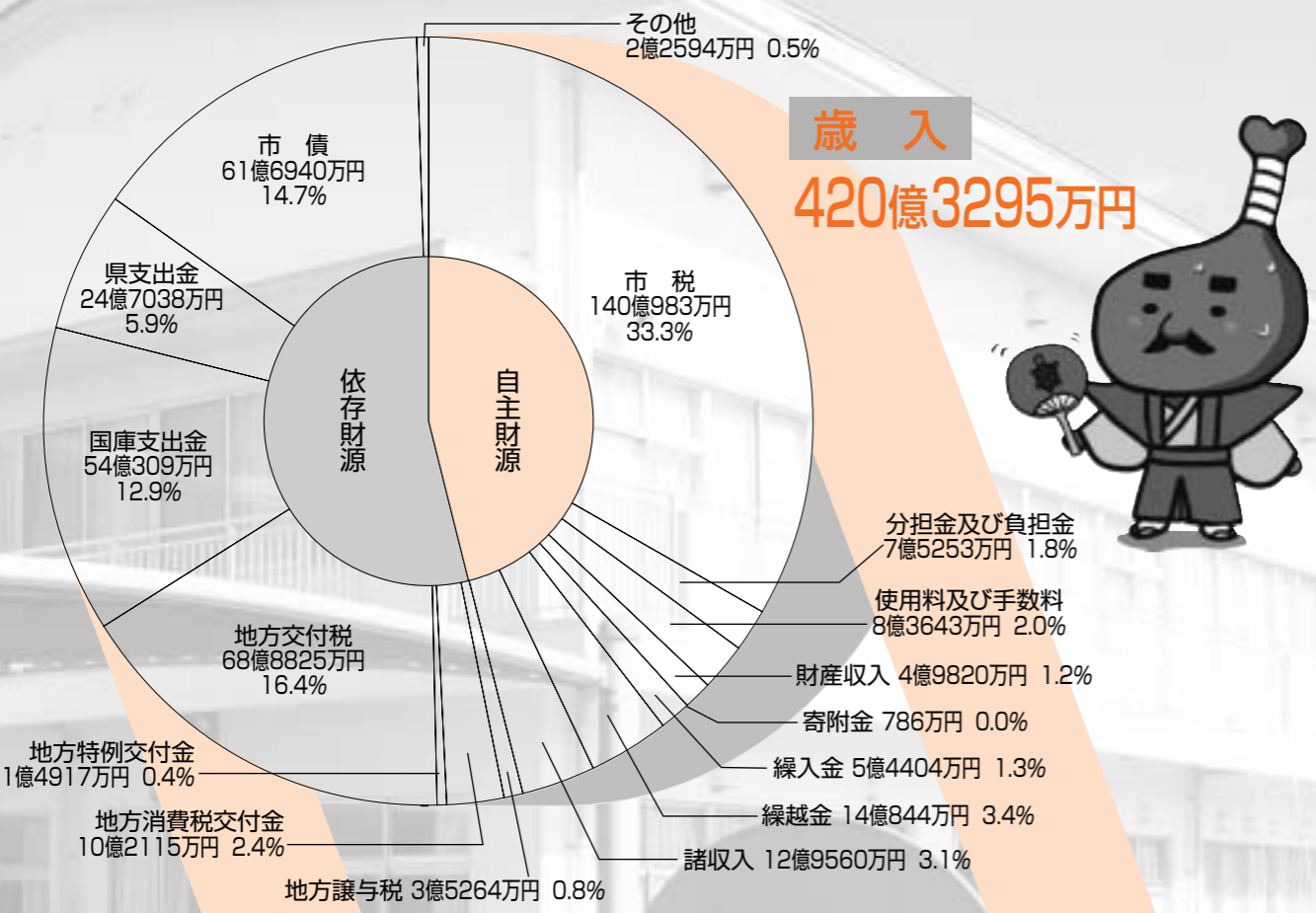


# 12億円の黒字決算 さらに安全安心のまちづくり



背景は新しい平山保育所園舎と子どもたち



## 平成23年度決算 おおむね良好です 未来につなぐ確かな一歩

### 将来を見据えた財政運営に努めます

市の全会計の収支を合算した決算状況は黒字となっており、良好な財政状況といえます。しかし、長引く景気の低迷による市税の減少や現在優先的に進めている小・中学校や保育所、幼稚園の耐震化事業など、安全安心のまちづくり事業に係る市債の償還金増加、また社会保障をはじめとする国の制度改正の動向など、まだまだ予断を許さない状況です。今後も適正な公債費管理を行うとともに、事業の必要性を見直すなど歳出の抑制も図りながら、健全な財政を持続するための財政運営に努めます。

### 健全化判断比率も良好

健全化判断比率は、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標で、地方公共団体の財政状況を客観的に表します。

同比率には下表の4つの指標があり、どれかが国の定めた基準を上回った場合は「財政健全化計画」や「財政再生計画」を策定し、財政再建に取り組まなければなりません。

平成23年度決算に基づく市の同比率は、どの指標も基準を下回っており、財政状況は良好だといえます。

#### ■健全化判断比率

健全化判断比率	丸亀市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 ※1	—	12.15	20.0
連結実質赤字比率 ※2	—	17.15	35.0
実質公債費比率 ※3	7.9	25.0	35.0
将来負担比率 ※4	61.8	350.0	

(単位：%)



さらに兜の緒を引き締めます

※1：実質赤字比率（黒字の場合は「—」）一般会計などの赤字の程度を指標化したもの。  
 ※2：連結実質赤字比率（黒字の場合は「—」）市の全会計の収支を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化したもの。  
 ※3：実質公債費比率 一般会計などが負担する市債の元利償還金やそれに準じる負担等が市税等の標準財政収入額に占める大きさを指標化したもの。  
 ※4：将来負担比率 一般会計などが将来負担すべき実質的な負債がどの程度あるのかを指標化したもの。

### 一般会計

## 競艇から5億円繰り入れ 24年度へ12億円繰り越し

#### 「歳入」

歳入総額は、420億3295万円で、前年度と比較して14億2986万円増加しました。

歳入の約3分の1を占める市税収入が景気の回復が進まず、法人市民税をはじめ、2億7516万円の減収している一方、制度改正した子ども手当の影響などにより国からの資金が2億7379万円増加したほか、経営改善に

取り組んでいる競艇事業の収益から去年と同額の5億円の繰り入れを確保することができました。

また、小・中学校や保育所、幼稚園の耐震化事業など安全安心のまちづくり事業を実施するため、財源となる市債(借入金)が5億8670万円増加しています。

#### 「歳出」

歳出総額は406億9739万

円で、前年度と比較して15億273万円増加しました。

職員数の減少により人件費は減少しましたが、学校施設などの耐震化に伴う普通建設費の増加に加えて、社会保障関連経費(扶助費)も依然として増加していることが主な要因です。

平成23年度の歳入歳出差引額は、13億3556万円です。

このうち平成24年度にかけて継続する事業に要する財源1億4293万円を除いた11億9263万円を平成24年度に繰り越しています。